

## 親の因果が子に報い

いまだききはこんなことをいう方はいないでしょうが、古典や俗謡には出てきます。これは仏教の考えと思つてゐる人がいますが、仏教ではありません。でも年忌法要などで追善という表現をする仏家は多いです。これは生きてゐる者が、法要などして、その善行を回向しようとするのですから、子の因果を親に報いるような感じですか。だから本来、真宗ではこの言葉は使いません。それに因果の法則は自業自得のものです。

無我を主張し、靈魂は存在しないとする仏教では、因から果に一体何がどのようにして伝わるのか、業と云うのも、何かで何かが伝わっている感じですが、何と言われると答えがない。つまり因果や業は突き詰めると仏教の本来の姿からは出てこないのです。ただ善を勧め、悪を戒める手立てとしては、因果も業も存在意味があるようです。真宗では、自分に都合良くあつて欲しいという欲望が自分の発想や行動の根底にあることに気が付くと、それって生得的に持っている業を自得してゐるなど、自らに苦笑する受け取りです。